



自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより No.56 2020.10



多治見市制 80 周年記念

収蔵品展

やきもの入門

— 多治見の古代中世編 —

多治見市は古くからやきものの産地として知られています。8 世紀に須恵器の生産が始まり、9 世紀後半には植物の灰の釉薬を施した灰釉陶器が生産されるようになりました。11 世紀後半には、庶民の器である無釉の碗と小皿を主体とした山茶碗が大量に生産されました。

16 世紀、地上式の大窯の登場により釉薬をかけた製品が焼かれ、瀬戸黒や黄瀬戸、志野などの茶陶も焼かれるようになりました。江戸時代には連房式登り窯が導入され、庶民向けの雑器が多く生産されました。こうした技術の発展は明治以降も続き、現代に至っています。

今回の企画展では、古代から中世に焦点を当てて展示をしています。それぞれの時代における特徴的な資料を展示する一方で、緑釉陶器や文字・画つきの陶器、陶硯といった特殊なやきものも紹介しています。美濃焼の歴史について学ぶことができるのと同時に、多治見ならではのやきものを堪能できる展示となっています。

収蔵品展「やきもの入門—多治見の古代中世編—」

期間 令和 2 年 8 月 3 日 (月) ~ 12 月 25 日 (金)

場所 多治見市文化財保護センター展示室

入場無料

長福寺文書「美濃国池田御厨某寺奉加帳」

の記者会見をおこないました！

長福寺は弁天町にある、元弘年間（1331～1334）に創建された真言宗の寺院です。愛知学院大学の福島金治教授とともに平成29年度より長福寺文書の調査を開始し、今年2月にこの「美濃国池田御厨某寺奉加帳」を発見しました。市内では最も古い古文書です。この奉加帳は長さ6m以上もある巻物で、寄付金を募った名簿です。現多治見市域や東濃地域、名古屋～春日井の地域と広範囲の人々の名が記されており、長福寺を創建した源頼氏のほか土岐源氏など武士の名も見られます。「正安3年」（1301年）の文字が見られることから、そのころに作成された古文書であることがわかりました。今後この奉加帳をより詳しく調査することで、今まで知られていなかった中世の多治見の様子が明らかになることを期待します。



▲記者会見会場の様子（令和2年6月26日 長福寺にて）

「やきもの入門」展示資料紹介「志野柳鳥文向付」

しのやなぎとりもんむこうづけ

展示資料の中から、「志野柳鳥文向付」（16世紀）の紹介をします。

志野とは、長石釉を掛けたやきもので、16世紀の末に美濃の大窯で焼かれ始めました。桃山時代を代表するやきものです。

この向付は口縁部の四方が丸くなっていて、口縁の端が立ち上がっています。内面底部には鉄絵で柳文、口縁には鳥文や幾何学文などが描かれています。大窯末期の優品です。



▲志野柳鳥文向付

小泉小学校へ出張授業に行ってきました！

8月6日に、小泉小学校の6年生を対象として、「美濃焼の歴史と高社」と題した出張授業を行いました。

まず、多治見がなぜやきもので有名になったのかを、原料、技術者、流通ルート、技術開発の4つのポイントで説明しました。その後、多治見のやきものの歴史、小泉小校下の高社山のやきものづくりや、伝承について説明しました。児童たちは熱心に話を聞いていて、積極的に発言してくれました。説明を聞いた後は、興味津々にやきものを見学していました。

地域の歴史に対する理解を深めてくれたと感じています。



▲授業風景

令和2年度 北小木のホタル生息調査の結果

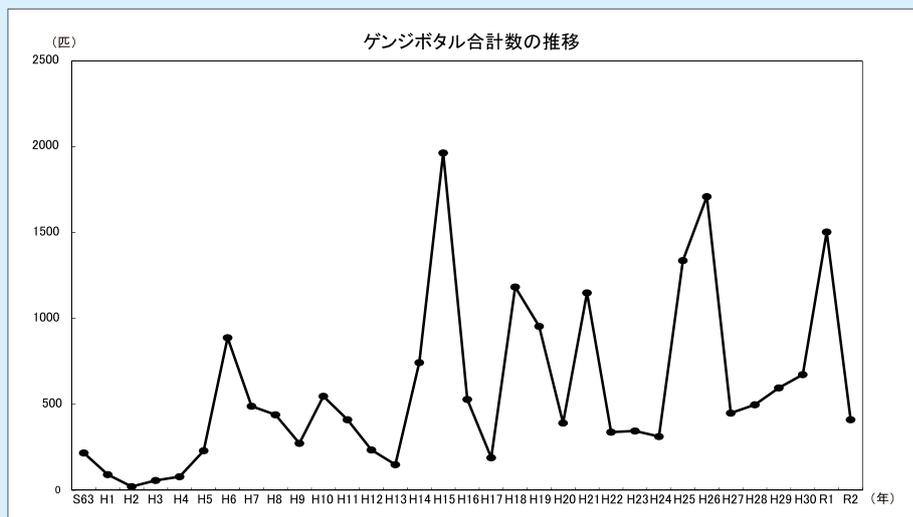
北小木町に毎年数多く飛び交う「北小木のホタル」は、市天然記念物に指定されています。その発生状況について、今年も6月初めから7月半ばにかけて、ゲンジボタルとヘイケボタルそれぞれの調査を行いました。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今年は文化財保護センター職員と文化財審議会委員の植物担当のみの少人数で調査を実施しました。また、例年にはない長雨で、調査を予定していた日程の約半数が中止になるなど、異例のホタル調査となりました。

今年のゲンジボタルの発生数は去年の1502匹と比較すると大幅に減少し、411匹でした。ゲンジボタルは平成13年以降の調査結果から、3年ごとに大発生を繰り返していることが分かっています。去年は大発生したので、今年の減少は予想通りです。おそらく来年のホタル数も少ないと考えられます。しかし、平成29年は大発生せずその周期が崩れており、再来年に大発生するかは不明です。平成6年から13年までは4年周期で大発生していたため、今後3年周期から4年周期に変化していく可能性もあります。いずれにせよホタルの生息環境に大きな変化がなければ、ゲンジボタルは数年周期で大発生していくと思われま

す。ヘイケボタルの調査は、雨の影響で例年より遅い時期の調査となりました。今年のヘイケボタル数は例年より全体的に減少し、去年は102匹であったのに対し、今年31匹でした。特に下流の神明洞地点ではホタルを確認できませんでしたが、毎年ある程度ホタルを確認できるため、今年0匹であったのには調査の時期が遅かったことが影響している可能性があります。上流の一之洞地点では、水がある所の付近で多く確認できました。今後もホタルの生息環境を整え、保護に努めていきたいと考えています。

最後になりましたが、草刈などのボランティアに参加してくださった方々、北小木町や関係者の方々に、この場を借りて深くお礼申し上げます。



新収蔵品紹介

文化財保護センターでは、多治見市陶磁器等資料収集鑑査委員会を開き、多治見のやきものの歴史上で資料価値のある陶磁器の購入事業を行っています。

今年度は、明治時代の陶磁器を3点購入しました。



▲ 加藤五平染付花瓶

明治時代前期。細密に描かれた椿絵と唐草絵が美しい作品。



▲ 西浦焼上絵付花瓶

明治時代後期。蝶や藤などの花紋、水辺の風景が描かれている。左は既蔵品。



▲ 松原栄助染付花瓶

明治時代。雄鶏と秋の草花が呉須、赤、緑の下絵で描かれている。

「たじミュージアム」で文化財保護センターを紹介しています

多治見市公式YouTubeチャンネルでは市内の博物館、美術館を紹介しています。文化財保護センターの過去の展示の様子を楽しめる動画です。文化財保護センターのマスコットキャラクター・エンゴロさんがやきものの解説をしてくれています。ぜひご覧ください！



▲「たじミュージアム」の動画

<https://www.city.tajimi.lg.jp/kanko/tajimuseum/outside.html>

池田のエノキの指定解除

池田のエノキは、^{つばはら}甘原に通じる街道の目印となっていたといわれ、樹齢や太さから貴重であると昭和51年4月16日に市の天然記念物に指定されました。その後樹勢が弱り、何度も保護処置を行いましたが、幹の腐朽による空洞化が進み、張り出した枝のバランスも悪い状態で、倒木の危険性が高くなっていました。倒れた場合の被害を考慮し、令和2年6月25日に指定解除しました。



▲池田のエノキ

「埋蔵文化財発掘調査室」が設置されました

これまで埋蔵文化財の発掘調査業務は教育委員会が全て担ってきましたが、令和2年度から、一部の業務を（公財）多治見市文化振興事業団に委託することになりました。事業団では「埋蔵文化財発掘調査室」を新たに設置して、発掘調査業務等を行っています。主な業務は、以下の通りです。

- ・周知の埋蔵文化財包蔵地の存在確認（土木工事の予定地が、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するかどうかの問い合わせへの対応）
- ・開発に伴う試掘や発掘調査業務
- ・発掘調査に伴い出土した遺物等の整理及び発掘調査報告書の執筆・刊行

多治見市では、埋蔵文化財発掘調査室と協力して埋蔵文化財の保護や普及・啓発に努めていきます。

〔問い合わせ〕（公財）多治見市文化振興事業団「埋蔵文化財発掘調査室」

多治見市旭ヶ丘 10-6-26 多治見市文化財保護センター内

TEL 090-6088-6672 FAX 0572-74-3709

E-mail maibun@tajimi-bunka.or.jp

多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

E-mail:hogo-cen@city.tajimi.lg.jp

ホームページ :<https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

〈利用案内〉 開館時間：9:00～17:00（最終入館 16:30）

休館日：土・日・祝日、年末年始

入場無料

〈交通案内〉 タクシー：多治見駅から約 20 分

バス：東鉄バス「美濃焼団地前」下車 徒歩 5 分

